

七尾市文化産業賞に三氏

七尾市文化産業賞は、本市の文化・産業の振興発展に
尽くされ、特に功績が顕著な方に贈られるものです。

閨 正 仁 氏



地域伝統文化・芸能の継承保存に尽力

ねや・まさひと 湊町（満77歳）

昭和27年から「七尾まだら春風会」で尺八・三味線を担当され、同会が昭和47年石川県無形民俗文化財（民俗芸能）「能登のまだら」の保持団体に指定されるのに尽力されました。昭和46年旧七尾市初の民謡研究会「城山民謡研究会」発足に尽力され、48年には会長に就任されました。同会が53年に「城山民謡会」と改名した後も15年間、会長として活動の基礎を築くとともに、市内文化活動の充実に精力的に取り組みました。昭和57年には石川県民謡協会の理事、平成8年には常務理事に就任し、県内各地で伝承文化の継承活動に努

められました。

また、姉妹都市金泉市で開催された2回の「日・韓・中民俗フェスティバル」では訪問団長として参加し、姉妹都市交流にも大きく寄与されました。

（閨さんの話）

これまで多くの方々に支えてもらい、大変感謝しています。来年3月の「市民音楽祭」を盛り上げることが当面の目標です。今後も民俗音楽をより多くの方々に広め、七尾を活性化させていきたいと思っています。

佐渡光雄氏

大森カズ氏



地域農業の維持・発展と消費者への農業に対する理解を深める活動に尽力

さど・みつお 飯川町 (満71歳)



食生活改善を中心とした保健事業および社会教育に尽力

おおもり・かず 山王町 (満75歳)

米の生産調整による農政の変動に際し、「コストの省力化を図る必要性を感じ、それまでの個人経営から、集落営農へ」といち早く取り組まれました。平成元年に旧七尾市で先駆けとなる集落営農組織「飯川営農組合」を設立され、組合長に就任されました。

平成4年には日本農業新聞主催「日本の米づくり100選」に選出されております。平成8年からは消費者に農業の大切さを理解してもらうための農業体験の交流事業も行い、農業への理解に向けた活動を精力的に進められています。

(佐渡さんの話)

効率よりも「確かな味」にこだわって、自分の楽しみ・健康のために続けてきました。周りの人たちに助けられています。今後は後継者の育成に努めていきたいと思っています。

食生活の改善が健康増進に必要と考え、昭和54年12名の仲間とともに「七尾市食生活改善推進協議会」を結成し、活動家の発掘とリーダーの育成に努められました。昭和57年から平成17年までの23年間、同協議会会長を務めて食生活を通しての保健活動を展開し、食生活改善推進活動の基礎を築かれました。

食生活改善活動にも努められました。平成4年には全国地区衛生組織連合会会長表彰を、7年には栄養改善事業功労者として厚生大臣表彰を受賞されるとともに、七尾市食生活改善推進協議会も翌8年に優良団体として厚生大臣表彰を受賞しています。

(大森さんの話)

「おこぜの会」(会員約30名)で、「まつりごっつお」と呼ばれる昔のご馳走を、全て七尾の食材を使って作っています。多くの方に喜ばれているので、これからも作り続けていきたいと思っています。